事業概要書

事業名	カーロでスタディ				
開始日	2022.06.10	終了日	2023.03.31	日数	294 日
団体名	公益財団法人日本 YWCA　YWCA 活動スペース「カーロふくしま」				
（カウンターパート）					
担当者名	佐藤純子		スタッフ人数		11 人

事業費総額（税込）	750,000 円
CF 事業枠	550,000 円
その他資金	200,000 円

事業目的	新型コロナウィルス禍における、小中学校の変則授業等により生じる学力差や授業に追いつけない子どもに対し、安全安心な学びとコミュニケーションの機会を提供する。また、講師の大学生の経済的負担を軽減し、減少した教育実習に代わり、学び・コミュニケーションを育む場となることを目指す。
事業全体の概要	**●カーロふくしまとは** YWCA 活動スペース「カーロふくしま」は、 日本 YWCA の東日本大震災被災者支援の拠点。2011 年に生まれた子どもが成人するまでの 20 年間（＝7300 日）、ふくしまの女性や子どもの心身の安全安心を目的に、以下 3 つを柱に活動を行っている。 (1) リフレッシュ（保養）プログラム：低線量地域に滞在し、心身の保養を行う (2) セカンドハウスプログラム：住居の提供および交通費補助によって、低線量地域で日常のように生活する家族単位型保養 (3) カーロふくしま：被災地域の福島市にて、ワークショップやおはなし会（講座）などの開催や、女性と子どもたちが気軽に集えるセーフスペース 上記活動は、福島に常駐する専任職員が、全国 24 か所の地域 YWCA や各被災者支援団体と連携し、継続性が高く、当事者のニーズに沿った信頼される支援を行っている。 2021 年度には、シビックフォースとの協働事業で「カーロでスタディ」を実施し、新型コロナウィルス影響下の子どもたちへ向けた学習支援を行い、継続支援の一環として子ども文庫の設立準備にも着手した。 **●取り組むべき課題** 【第 1 期の取り組みと成果】 2020 年度夏休みにコロナ禍の緊急支援として開始した学習支援は、2021 年度シビックフォースとの協働事業として実施した結果、児童福祉・居場所づくりに興味を持つ大学生（講師）の活躍の場、年齢や学区に拘らない子どもたちの交流を深めることが出来た。また、運営のノウハウや地域との繋がり、子どもや保護者との信頼関係など基盤作りが

	でき、次年度以降の継続運営に繋がる実績を積むことが出来た。 **【課題】** 活動資金の調達：カーロでスタディ継続のための体制強化の一環として、助成金申請を行ったが、採択には至らなかった。財政基盤の強化は、継続して取り組む必要がある。 また事業について、上記助成金の審査時には、以下の指摘を受けた。 ①参加者固定化の可能性…幅広い受益者獲得が得られないのではないか ②学習支援に特化した居場所にニーズはあるのか 上記について、当団体の考え方を以下に示す。 ① 参加者固定化の可能性 子どもたちが安全・安心に利用するためには、家や学校から徒歩圏内（生活圏内）で参加できるのが理想で、参加者の固定化はやむを得ない面がある。子どもの居場所を各地に作るため、経験を基にノウハウを確立し、居場所づくりに興味ある人々に共有することが、居場所づくり参画へのハードルを低くすると考える。 ② 学習支援のニーズ 「子ども食堂」という活動や名称が一般化し、福島市内だけでも 30 団体近くが活動しているのに対し、カーロふくしまの学習支援に特化した居場所づくりは、福島市及び近郊でも稀である。第 1 期では、カーロでスタディに延べ 106 名の子どもが参加し、その多くが学習面のメリットはもとより、居場所として楽しんでいることが見て取れた。団体独自の強みを活かし、子ども食堂と補完しながら、居場所を必要とする子どもたちのニーズに応えたい。 <u>今期に取り組む課題</u> 上記を踏まえ、今期事業では、以下の課題に取り組む。 1. 学ぶ機会の格差：遠方の参加希望者への対応 福島市子ども食堂 NET に加盟している団体を可視化した「子ども食堂 MAP」によると（ https://fukushimaibasyo.beans-fukushima.or.jp/network/ibasyomap/ ）、カーロふくしまが所在する JR 福島駅西側は、学校が点在するにもかかわらず、子どもの居場所の空白地帯となっていることが分かった。参加を促進するには、近隣住民との連携も重要である。 2. 安心安全な運営ガイドラインの必要性 小さなスペースがあれば運営できる学習支援のノウハウを確立し、コロナ禍でも安心安全に運営できるよう、同対策を含むガイドラインが必要である。 3. 大学生の経済的影響 コロナ禍の長期化に伴い、家庭教師・飲食業などのアルバイト求人減や保護者の収入減による仕送り額減少など、経済的影響を受けた学生が多い。感染リスクや雇用の不安定さにより、アルバイト就業には慎重にならざる得ない状況が、現在も続いている。

	4. 活動予算の確保 活動を長期的に運営するための施策を引き続き行う。 **●パートナー協働プログラム対象事業** **コンポーネント①「カーロでスタディ」の開催（第 1 期から継続）** 休校などによる授業の補助、各家庭間の学習環境や学びの質と機会の平衡化を目指す 対象：小中学生（福島駅近隣） 開催：月に 2 日（各日午前・午後） 場所：カーロふくしま 定員：各回 5 名（ソーシャルディスタンスおよびきめ細かい学習サポートのため。感染状況によっては減員も検討する） 運営にあたっては、第 1 期の課題も踏まえ、以下の点に留意する。 - コロナ禍で安心安全に運営するための取り組みを図る ① ガイドライン（感染状況に則した開催基準、参加時の留意点など）を講師と共に作成し、参加者に配布する。 ② 開始時には、社会状況によって検温や抗原検査キットによる検査を行うなど、安全を可視化する。 ③ 開催日程・交流会開催告知などを随時町内会回覧板や近隣商店などでのポスター掲示などの依頼、育成会（子ども会）へのアピールなど、近隣（徒歩圏内）在住の子どもや保護者への広い周知を行う。 ④ 新型コロナ感染症の流行が、学びや遊び、様々な体験活動の制限など、子どもたちに与えた影響は大きく、今もなお、子どもの体調管理に不安を抱く保護者が多いことから、「キッズドクター」※と連携し、感染対策の一助とするとともに、子どもの体調管理に関する保護者の負担を軽減する。 ※キッズドクター…子どもの健康不安に無料でチャット相談対応できるアプリ。夜間・休日にも対応。子ども支援活動を行う団体経由で加入すると、保護者は無料で利用出来る https://eversense.co.jp/product/kids-doctor - 講師：昨年度からの継続のほか、学習支援経験者や子どもの居場所づくり経験をもつ福島大学災害ボランティアセンター所属学生などに参加を呼び掛ける。また、それ以外の学生にも門戸を広げ、コロナ禍で失った社会参画の機会を得られるよう、大学の学生支援室などにも募集を呼び掛ける。 - 参加者の募集方法：例年、YWCA 主催プログラムに参加した子どもへの声がけ、口コミ、311 受入全国協議会を通じての呼びかけ、プレスリリース、チラシ・ポスター配布、市内中心部の公共施設にチラシ設置を通じて募集した。今年度は上記に加え、子ども食堂 NET を通して、子ども食堂へ集う子どもたちに対し、学習支援や同支援に関連する居場所へのニーズがあるか、また、子ども食堂を実施する団体に、子ども食堂以外で上記ニーズがあるかを調査する。加えて、福島市教育委員会の後援名義取得、ひとり親家庭をサポートする団体とも協力しながら、市内のより広範囲で、

	潜在的ニーズの把握に努め、利用者獲得につなげる。 **コンポーネント②「出張版カーロでスタディ」の実施（新規）** 郊外の子ども食堂と協力し、遠方の参加希望者に学ぶ機会を提供する 対象：小中学生（福島市郊外在住者） 開催：夏休み・冬休み（計 4 回） 場所：連携先子ども食堂会場 運営上の留意点はコンポーネント①に同じ。参加者募集では、町内会・育成会とも連携し、回覧板でのチラシ配布や町内の商店などへのポスター掲示など告知を強化する。 **コンポーネント③活動の長期運営を支える基盤作り（第 1 期から継続）** - 現在カーロふくしまの活動主軸となっている被災者支援事業（保養（リフレッシュ）プログラム、セカンドハウスプログラム）について、コロナ禍による社会状況に則した各プログラム実施見直しによる予算の計上、カーロふくしまが主催するおはなし会での寄付つき参加費の設定など、活動資金の計上に努める。 - 全国 24 地域に所在する地域 YWCA の会員（約 2,000 名）を中心に、過去の活動報告や SNS を通して学習会開催の様子・参加者の声などを届けながら、クリスマス募金など季節に合わせたイベントなどのファンドレイジングを積極的に取り入れ寄付を呼び掛けるとともに活動の PR を行う - 引き続き、Amazon みんなで応援プログラム、福島市子ども食堂 NET などを通じて物品寄付も呼びかけ、活動支援と周知を図る。また他団体との交流を通じて、資金調達のノウハウや知見を情報共有し、資金獲得につなげる。 **<u>●期待される効果</u>** **コンポーネント①「カーロでスタディ」及び②「出張版カーロでスタディ」の実施** 1. 学ぶ機会の均等化が促進される - 居住地や学区に関係なく参加できる子供が増える。 - 誰もが負担感なく参加でき、コロナ禍での学びとコミュニケーションの機会を均等に持てる場となる。 2. 子どもたちが安心安全に学びとコミュニケーションの機会を享受できる。 - ガイドライン作成により、参加者及び保護者の安心安全を確保する。 - ガイドラインを広く周知し、他団体にも活用してもらうことにより、感染対策を万全にした交流活動が普及する一介となる。 - 子どもの居場所を提供することによって、保護者が自由な時間を確保でき、ストレスの軽減ともなる。 3. 講師の大学生の経済的負担が軽減するとともに、教育や児童福祉の道を目指す学生にとっては、減少した教育・交流実習の場に代わり、学び・コミュニケーションを育

	む場となる。 **コンポーネント③活動の長期運営を支える基盤作り** 1. 活動と並行しながらブラッシュアップを行うことにより、事業効果や課題がより明確になる。 2. 各種ファンドレイジングにより、広く活動が周知される広報手段ともなり、賛同者が増え寄付に繋がる 3. 全国各地の地域 YWCA 会員により広く詳細に周知し、ファンドレイジングに参加して頂くことにより、福島の子どもたちの成長と共に福島支援や復興を見守る一介となる。

事業内容(事業種別（コンポーネント）ごと)	裨益者（誰が、何人）
コンポーネント①カーロでスタディの開催（第 1 期から継続） 月に 2 日（各日午前・午後開催）開催し、休校などによる授業の補助、家庭学習で起こる各家庭間の学習環境や学びの質と機会の平衡化を目指す。 各回の参加定員はソーシャルディスタンスおよびきめ細かい学習サポートのため 5 名とする。ただし、感染状況によっては減員も検討する。 また、年に 2 回（クリスマス、お花見など）交流会を開催し、参加者や保護者、講師学生などとの親交を図る。	福島市及び近郊在住の小中学生各回定員 5 名×40 回＝のべ 200 名。 大学生(講師)各回 2 名×40 回＝のべ 80 名 ※交流会…各回参加者 15 名＋講師・ボランティア 5 名×2 開催＝のべ 40 名
コンポーネント②「出張版カーロでスタディ」の実施（新規） 郊外の子ども食堂と協力し、カーロふくしまへ通うことのできない・学びと交流の機会が少ないなど、学習サポートを必要とする小中学生を対象に、子ども食堂を会場にして学習支援を夏休み・冬休みなどに年 4 回実施する。	出張学習会 1 回約 10 名×4 回＝のべ 40 名。 大学生(講師)各回 2 名×4 回＝のべ 8 名
コンポーネント③活動の長期運営を支える基盤作り（第 1 期から継続） 活動と並行しながら 2023 年度以降の継続と安定した運営に向け、各プログラム実施見直しによる活動予算の策定を行う。同時に地域 YWCA 会員、カーロふくしまの行事参加者など、繋がりのある支援者を中心に、ファンドレイジングを行う。	